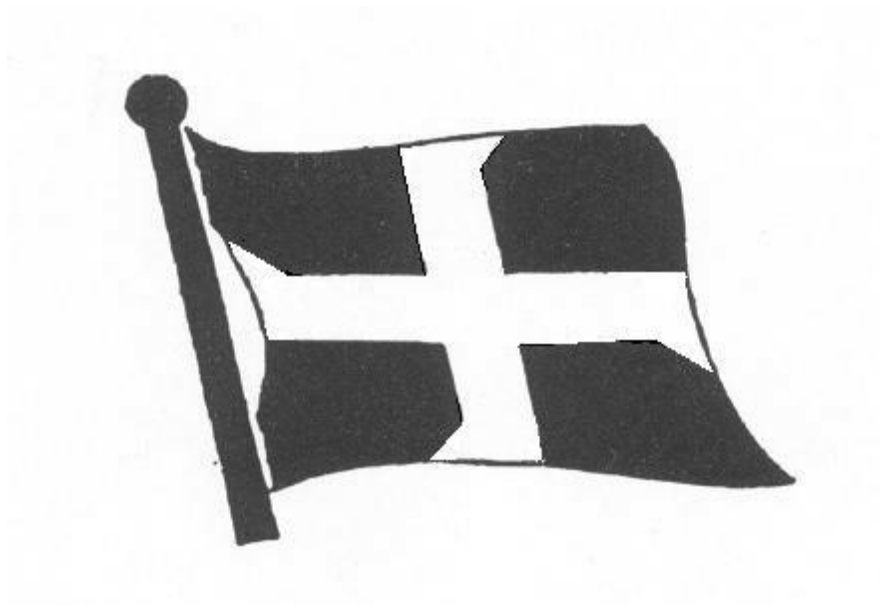


蒼穹 NEWS

No.3

伊勢予選総括号

令和 7(2025)年 6 月 7 日発行



—目次—

- ①主将挨拶・女子主将挨拶・
監督挨拶・長距離パートチーフ挨拶
- ②伊勢予選結果・総括
- ③その他ご報告

① 主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶・長距離パートチーフ挨拶

《主将挨拶》

6月1日、全日本大学駅伝の関西地区予選がヤンマーフィールド長居にて行われました。目標は全日本大学駅伝出場権の3位、4時間10分を目指しましたが、3位の関西学院大学とは12分47秒の差をつけられ、総合タイムでは4時間17分37秒と目標タイムに7分及ばない結果となりました。

長距離パートは去年の伊勢予選不出場の悔しさを胸に、この伊勢予選での予選会突破を目指して、この1年間練習に励んできました。また、京都大学陸上競技部として、長距離パート以外の部員も含めて全員で伊勢予選に向かう取り組みを積極的に行えていましたが、それでも目標には届きませんでした。今回本戦出場を果たした3校ないし、強豪私立に勝ち越すためには、1～3組を走る中間層の底上げ、そして4組を走るエースの存在が必要不可欠なのではないかと思っています。

幸いにも今年は来年度も伊勢予選に向かうことができる多くの選手が出場しました。今回経験した悔しさをしっかり受け止めるとともに、強い長距離パートを再び復活させ、そして京都大学が伊勢へと駆けるその夢を追うために、この大会がその1歩目になることを望みます。

京都大学陸上競技部としては次は七大戦に向かっていくことになります。目標である「男女総合優勝」に向けて、今チームにある課題に向き合うとともに、勝ちに行くチームになるために、チーム一同精進してまいります。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様におかれましては夜遅くにもかかわらず現地での応援、そしてライブ配信での熱いご声援をいただきありがとうございました。残るシーズンの対校戦においても、何卒変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 松井 和輝

《女子主将挨拶》

6月1日に全日本大学駅伝関西学連出場大学選考会が行われました。「3位以内(全日本大学駅伝出場権)かつ4時間10分以内」という目標に対し、7位で4時間17分37秒57と目標を達成することはできませんでした。

この大会への出場は2年ぶりでチームとして経験者が少ない中ではありましたが、長距離を中心としたサポートや応援など当日まで準備をして、みんなで目標達成への思いを持って臨みました。当日出走した選手は高い壁を超え伊勢予選突破のために力を尽くし、応援サポートも10人の選手の力になるためにそれぞれの役割からできることを尽くしました。さまざまな観点から良かったことも悪かったことも言えることはありますが、全部ひっくるめて今回の結果が今のチームの

実力だと思います。みんなの目標にみんなで向かった結果として全員で受け止めていきます。今後、京大がさらに強くなるために、伊勢予選を突破するために、出走した選手に限らず今年伊勢予選を経験した部員は今回得られたもの感じたことを大切にして他の部員とも共有して来年以降にいかしていったほしいです。

最後になりましたが、現地に駆けつけてくださったり熱い応援してくださったり蒼穹会の皆様にはたくさん力をいただきました。誠にありがとうございました。次にチームとしては七大戦に向かっていきます。目標は男女総合優勝です。引き続きご支援やご声援をよろしくお願いします。

京都大学陸上競技部女子主将 平松 藍

《監督挨拶》

今年度の伊勢予選はヤンマーフィールド長居にて、全日本駅伝 3 枠、出雲駅伝 1 枠の少ない枠をかけて争われました。

昨年度記録審査を突破できず参加できなかった幣部においても、今年度は無事出場権を得ることができ、伊勢を目指して走ることとなりました。目標は高いながらも 3 位、全日本駅伝出場とし、そのために最低限必要な 4 時間 10 分を目安といたしました。

結果としては幣部は 4:17:37.57 で 7 位と、目標からは大きく離れてしまいました。しかしながら、昨年度不出場から関西の 7 番手まで実力をつけてきた長距離陣と、彼らを引っ張って来た稲田には大変な努力があり、これだけの向上を見せてくれたことを高く評価し、感謝しています。

一方で通過ラインが 4 時間 5 分を切るなど、ハイレベルとなっている関西で、これからも全日本を目指していくためには、より一層の努力が求められます。推薦や、練習環境で及ばない私立大学に打ち勝つためには、部員全員が長距離を強くするのだという意識を持ち、伊勢路にむけて長距離と相互に引っ張り合っていく姿勢が必要になると思います。

チームとしての一体感を高め、また全日本を走る京大のユニフォームをお見せできるよう、また精進してまいります。これからもご注目、応援のほどよろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 島村 夏惟

《長距離パートチーフ挨拶》

平素より京都大学陸上競技部をご支援いただき、誠にありがとうございます。

先日行われました全日本大学駅伝関西学連出場大学選考会において、京都大学は 4 時間 17 分 37 秒 57 で総合 7 位でした。目標としていた 3 位には 12 分 40 秒ほどの差があり惨敗とい

う厳しい結果でした。

昨年度は同大会に記録審査の結果出場ならず、関西学生駅伝では 13 位と苦しんだ 1 年でした。今年度はその下地を引き継ぎ、まずは記録審査を突破すること、着実に各選手が記録を残すことを第一として取り組んできました。選考会の記録審査を大きく余裕を持って通過したこと、多くの選手が記録を出しにくい、練習の質を確保しづらい春シーズンに、1つ水準を上げることが出来たことは事実です。

しかし、関西 5 強に加え龍谷大学にも大きな差をつけられたことにも違いありません。3 位という目標を掲げた以上は目標を達成する責任があり、最低でも突破していたかもしれないという可能性を見せられるような予選会にしなければなりませんでした。サポート含め選手もこの半年間練習に励んできましたが、ひとえに突破への道筋を切り開くための取り組みを提示できなかったことに責任を感じています。

今後も長距離パートとしては全日本大学駅伝出場を目標としていくでしょう。しかしこのままでは、全日本大学駅伝に出場するという思いが形だけのものである、または全日本大学駅伝を目指している自分たちが好きなのではないかと指摘されかねないと認識しています。長距離パートとしては次に半年後に行われる関西学生駅伝に向かっていきます。チームとしての現状を正しく把握し、危機感を持って今後の取り組みに繋げていきます。

最後になりましたが、ご多忙の中現地に駆けつけてくださった方々、結果を心待ちにしてくださった方々に、厚く御礼申し上げます。今後も七大戦、東大戦と大きな対校戦が続いていきます。選手一同精進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部長距離パートチーフ 稲田 正裕

②伊勢予選結果・総括

秩父宮賜杯 第 57 回全日本大学駅伝対校選手権大会 関西学連出場大学選考会
2025 年 6 月 1 日(日)
於ヤンマーフィールド長居

総合成績

関西大	4:03:37.03
大阪経済大	4:04:38.26
関西学院大	4:04:50.06
京都産業大	4:05:09.05
立命館大	4:07:06.08
龍谷大	4:10:29.19
京都大	4:17:37.57
摂南大	4:17:49.76
同志社大	4:19:50.51
神戸大	4:21:43.16
大阪大	4:22:16.55
近畿大	DQ

※総合成績上位 3 チームが全日本大学駅伝に、京産大とそれを除く上位 1 チーム(関西大)の合計 2 チームが
出雲駅伝に出場する。

男子 10000m 第 1 組結果

- 1 嶋田 匠海 (4) 関西大 31:11.17
- 2 遠藤 瑞季 (4) 関西大 31:15.44
- 3 山形 晃誠 (3) 摂南大 31:21.44
- 4 久保 明央人 (4) 京都産業大 31:23.13
- 4 茶木 涼介 (4) 立命館大 31:23.13
- 12 大城 龍之介 (2) 京都大 32:27.78
- 24 佐向 丘 (3) 京都大 34:23.41
- 27 八木 皓星 (3) 京都大 34:34.97

男子 10000m 第 2 組結果

- 1 坂本 亘生 (M1) 関西大 30:16.19
- 2 平野 圭人 (3) 関西大 30:20.21
- 3 清水 柊汰 (2) 京都産業大 30:29.84
- 4 谷村 恒晟 (4) 関西大 30:29.92
- 5 山本 雅也 (4) 関西学院大 30:32.16
- 23 服部 来羅 (4) 京都大 33:16.02
- 28 梅原 佑介 (M1) 京都大 33:32.86

男子 10000m 第 3 組結果

- 1 井手 蒼人 (3) 関西大 30:44.16
- 2 芝 秀介 (4) 関西大 30:45.04
- 3 竹村 明人 (2) 京都産業大 30:48.91
- 4 新 博貴 (4) 大阪経済大 30:49.12
- 5 大庭 一心 (3) 龍谷大 30:51.54
- 14 江端 康太 (M2) 京都大 31:12.73
- 16 稲田 正裕 (4) 京都大 31:52.62
- 17 照山 潤 (4) 京都大 32:09.35

男子 10000m 第 4 組結果

- 1 岩坂 蓮太 (2) 大阪経済大 29:43.26
- 2 南部 悠陽 (3) 同志社大 29:45.91
- 3 山下 慶馬 (3) 関西学院大 29:46.91
- 4 松原 幸之助 (2) 京都産業大 29:57.94
- 5 秋山 翔太郎 (4) 関西大 30:04.48
- 20 原 圭佑 (M2) 京都大 31:16.06
- 23 小野 竜之介 (2) 京都大 31:52.15

<第 1 組総括>

1 組には八木(3)、佐向(3)、大城(2)が出場した。スタート後に 2 つの集団に分かれ、京大の選手達は 3' 15/km の第 2 集団でレースを進めていった。9 周目に第 2 集団が分裂した際、大城はペースを乱すことなく前集団について行き、龍谷大の選手と集団を形成する展開になった。21 周目から大城が抜け出し、単独走となったが、それ以降も大きくペースを乱すことなく PB の 32' 27 の好記録でゴールした。練習状況から考えても、十分その力を発揮したと言える。小野と共に 2 回生を代表する選手となりつつある大城であるが、着実にその力を伸ばしていったほしい。(中田)



着実に力を伸ばしてきた大城(2)

八木は第 2 集団分裂の際、後ろ集団に残り、阪大・神大の選手と 3' 20/km の集団を形成した。しかし、その後単独走になり、34' 34 でゴールした。悔しい結果には終わったが、伊勢予選を走ったという経験を糧に、これからは練習に取り組んで欲しい。佐向は第 2 集団分裂の際、前集団についたものの、その後八木と合流。しかし 16 周目から八木の集団を抜け出して、そのまま 34' 23 でゴールした。佐向も八木と同じく悔しい結果となった。しかし、八木、佐向ともにこれからチームを引っ張っていく存在として、この悔しさを晴らすような活躍を期待したい。(中田)



悔しさを今後に繋げるか佐向(3)、八木(3)(左から)

<第2組総括>

2組には梅原(M1)、服部(4)が出場した。レースは想定通り5強がキロ3分辺りのハイペースで進んだ。2人はそのやや後ろで推移していたが、4周目から服部がやや離れる。梅原は一時は離れそうになるも粘った。しかし3000通過辺りから梅原も集団からこぼれはじめ、1周78秒から80秒を超えるラップも出てきた。中盤から終盤にかけては2人とも最低限のラップを刻み、服部のやや前方を梅原が走るという状況だった。苦しい走りになったが、最後まで力を出し切ってくれた。(造田)



粘りの走りを見せた服部(4)

この組は目標とするタイム帯の集団ができない非常に難しいレースであったものの3位を狙うためには序盤から攻めたレースをしなくてはならず、伊勢への強い意志が感じられた。(造田)



果敢にハイペースな集団に挑戦した梅原(M1)

<第3組総括>

3組には江端(M2)、稲田(4)、照山(4)出場した。スタートして2つの集団に分かれ、江端、稲田が前方の、照山が後方の集団についた。

江端は集団中程、稲田は集団後方に位置し余裕を持って2000mを通過した。江端はそのまま4000m通過し、稲田は集団の最後尾で離れそうになるも、4200mあたりで集団のペースが一気に落ちたこともあり、再び集団に戻ってレースを進めた。(庄田)



パートチーフとしての意地の走りを見せた稲田(4)

照山は集団の後方でラップを刻み余裕を持ちながら2000mを通過した。少しずつ集団から人が落ち始め4000m通過では集団は3人となった。それでも、照山は集団の力を使いながら冷静にラップを刻み続け6000mを通過した。そこで集団のペース

が落ち始めていたことを考え、引っ張り始めペースを戻した。そこで集団は二人となり、7000mあたりで前に出られ、ついていく形となった。

7000m過ぎで稲田が集団から離れ始め苦しい状況となり、江端も 8000m通過で集団から離れ始めた。そこから二人は単独で前を追いかける展開となり、江端はラスト 1 周で首が大きく振れ苦しくなるが、もう一度ペースを上げ限界まで出し切り PB を大幅に更新した。稲田は離れてからも粘りの走りでペースをあまり落とさず PB に迫るタイムでゴールした。

(庄田)



長年の経験を生かし強さを見せた江端(M2)

照山は、7000mから前の選手についていたが、ラスト 1000mからペースを上げ後ろを引き離しにかかった。そこからは気迫の走りでラスト 200mでもう一度切り替えスパートして PB を更新してゴールした。(庄田)



冷静なレース運びで実力を出し切った照山(4)

<第 4 組総括>

4 組には原(M2)、小野(2)が出場した。3 組の終了時点で選考会突破争いが大混戦となっており、緊張感高まる中レースがスタートした。序盤は飛び出した龍谷大の選手を置いて、2 位集団は比較的ゆったりとしたペースで 1000m を通過するも、そこから 3'00/km を切るペースへと上がり、徐々に振り落とされる選手も出てきた。

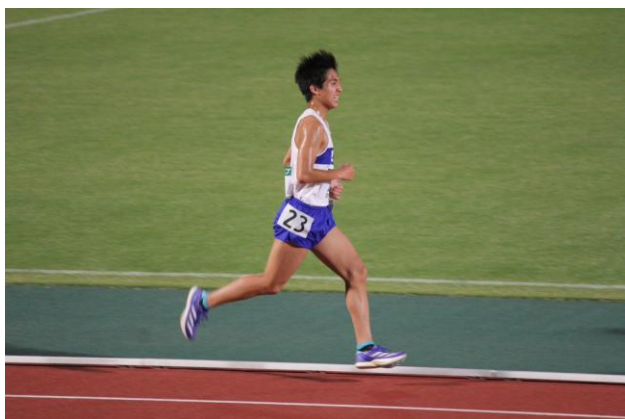
原は先頭集団に後方につき、5000 を 15 分 10 秒で通過するも、そこから集団から遅れる。同じく集団から漏れた選手とともにレースを進める。終盤、後ろから追いついてきた選手の力も借りつつテンポの修正を図る。長い四肢をダイナミックに使った力強いラストスパートで力を振り絞り、結果は 20 着 31'16"06 となった。(土田)



連戦の中、ラストイヤーで全力を尽くした原(M2)

小野は 2000m から 3000m にかけてのペースアップで消耗し、3200m を通過したところで集団から遅れる。後ろから追いついてきた選手と共に集団を形成し、その中で立て直しを図るも徐々に離されていく。横腹を抑える場面も見られ、かなり苦しい走りになったが、懸命に腕を振りゴールまで進んだ。結果は 23 着 31'52"15 となった。

両者ともに京大のエースとしての矜持を感じさせるレースとなった。6 年間突破を目指し続けてきた最年長の原の思いは、京大の若きエース小野へと託された。(土田)



悔しい結果となった若きエース小野(2)

③その他ご報告

この度、週末の夜遅くにもかかわらずお越しいただきました OB・OG の皆様の 名簿を以下に掲載させていただきます。尚、お越しいただいたにもかかわらずお名前が無い方々につきましてはこの場を借りてお詫び申し上げます。

S41 森本 正幸

S53 眞野 勝文

H28 岡本 和晃

H28 下迫田 啓太

H30 柴田 裕平

H31 谷口 博紀

R3 津吉 順平

R3 久田 雅人

R4 足立 舜

R4 鈴木 洋太郎

R5 高橋 侃凱

R6 尾原 翔

R6 柴田 栗佑

R6 宮澤 知希

R6 安本 元虎

R7 池田 幹

R7 服部 航大

R7 三嶋 友貴

(敬称略)



蒼穹ニュース 令和7年度 第3号
令和7年6月7日発行

発行所: 京都大学体育会陸上競技部
編集者: 庄田隆人(副務係蒼穹ニュース担当)
写真担当: 中尾亮介・中澤ひなた・中田晴斗(写真係)

京大陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
京大陸上競技部記録 HP <https://www.athletics.kusu.kyotou.ac.jp/record/index.html>
関西学連 HP <https://gold.jaic.org/icaak/index.html>
メールアドレス shoda.ryuto.87z@st.kyoto-u.ac.jp(庄田)